

# 都中英研だより

第 58 号  
東京都中学校英語教育研究会  
会 長 井 田 宗 宏  
(東大和市立第二中学校長)

## 関ブロ東京大会に向けて —運営準備進捗状況の報告—

毎年行われている、関東甲信地区中学校英語教育研究協議会（「関ブロ」）は、来年度、東京大会を予定しております。そこで、都中英研では、この大会に向けた準備を進めています。

現時点までの予定をご紹介します。本大会の成功のため、全会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、来年度行事予定編成等でのご配慮をよろしくお願い申し上げます。

### 1 開催趣旨：

平成24年度より全面実施される新学習指導要領では「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」ことが目標とされている。その目標の達成のために今回の改訂では小学校の外国語活動の導入を踏まえ、そこではぐくまれたコミュニケーション能力の素地の上に四つの技能を総合的に育成することとしている。英語教師は、生徒の実態を把握し、一人一人のニーズに応じた支援をしていかなければならない。そのため、英語教育に関わる現代的な諸課題の研究を通して、自らの資質の向上と授業の充実・改善を図り、関東甲信地区中学校英語教育の発展に寄与しようとするものである。

### 2 研究テーマ：

「English Education 2010 英語教育の変革期を創る」～新学習指導要領全面実施に向けて～

### 3 期日：

平成22年11月12日（金）

### 4 大会日程：

9：00 受付  
9：40 開会行事・全体会  
10：40 公開授業  
11：30 記念講演  
12：30 昼食・休憩  
13：30 分科会・研究協議・閉会行事

### 5 会場：

全体会…ギャラクシティー西新井文化ホール  
分科会…ギャラクシティー西新井文化ホール  
及び足立区教育相談センター

### 6 記念講演：

講師…平木 裕 氏（国立教育施策研究所教育課程研究センター教育課程調査官）  
演題…「これからの外国語教育～小・中・高の連携における中学校の役割」（仮題）

### 7 公開授業：

授業者…浜内 明 教諭（足立区立第十中学校）

### 8 分科会各研究テーマ：（予定）

第1分科会…「4技能を総合的に育成する指導のあり方」  
第2分科会…「文法指導と言語活動の一体的な指導のあり方」  
第3分科会…「コミュニケーションに対する積極的な態度の育成のあり方」  
第4分科会…「語彙指導と辞書指導のあり方」  
第5分科会…「小学校と中学校が密接に連携した英語指導のあり方」

### 9 大会運営組織：

大会会長……………井田 宗宏 中英研会長  
大会実行委員長……………竹下 賢 同副会長  
事務局長……………飯島 光正 同副会長

副実行委員長(総務部担当)…廣田 幸男 同副会長  
同 (運営部担当)…牛島 順子 同副会長  
同 (研究部担当)…阿字 宏康 同副会長  
同 (編集部担当)…石鍋 浩 同副会長  
同 (編集部担当)…醍醐 路子 同副会長

部 長 (総務部担当)…重松 靖 同副会長  
同 (運営部担当)…横山 達也 同部長  
同 (研究部担当)…北原 延晃 同部長  
同 (編集部担当)…池田 武男 同部長

# 「小学校外国語活動と中学校英語への連携」

－大田区における小中連携の取り組み－

大田区教育研究会「外国語活動」部 研究部長  
大田区立道塚小学校長 山本恵美子

今年度、初めて大田区教育研究会に、「外国語活動研究部」が立ち上がり、区内の教員（小学校）50名程度の部員が所属している。これまで計画的にワークショップを中心とした実践を主に研究してきた。小学校教員にとっては英語は専門ではなく、どうしても苦手意識をもつ傾向にある。しかし、平成23年度から、5年生・6年生に年間35時間の英語を中心とした「外国語活動」の授業が始まる。それに伴い各小学校が「英語活動」の授業をどう進めていけばよいか研究を進めているところである。

本校では、平成19年度より校内重点研究を「英語活動」とし、手探りの中から研究を深めてきた。平成20年度には文部科学省の「外国語活動」のモデル校となり、本年度は「大田区教育研究推進校」として「英語活動」に全校で取り組んでいる。

\* \* \* \* \*

新学習指導要領では、『1、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。(1)外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。2、日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。(1)外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。また、中学校の外国語の目標は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどコミュニケーション能力の基礎を養う。』と示してある。

\* \* \* \* \*

平成21年10月7日（水）大田区教育研究会（小中一斉部会）に駒沢女子大学准教授、太田洋先生を講師に招き、小学校と中学校の教員が80名近く参加し、ワークショップを中心に研修会を行った。

小・中の教員が小グループになり、太田先生の「スリーヒント・ゲーム」（簡単な英語で3つのヒントを出し、答えを出し合う）から始まった。ここで、小・中の教員のコミュニケーションが生まれ、会場は英語の単語が飛びかう楽しい雰囲気となった。まるで太田先生の魔法にかかったように、教員は3つのヒントを手がかりにguessしながら答えにたどり着くことができた。

【講演内容】 本日の目的：3つのQ

（小・中教員がグループの形のまま、講師の太田先生の質問に対して話し合い、その後、全体で各グループ1つずつ意見を出していく。以下、●は太田洋先生のご指導およびまとめ、○は小中教員の意見）

Q1 小中連携を考える際に大切なことは？

●お互いに「こうして欲しい」と要求をすることではなく、小中の流れの中で（どこまで・どこから）自分の授業を見直すことである。

Q2 小学校で考えることは？

・Do you like English? Why?

●英語は、皆さん好きですか？嫌いだと答えた先生は自分が、英語を嫌いになったことを思い出し、教える立場になったら、自分が嫌だった暗記をさせない。

●スリーヒント・ゲームの活動を通してどのような力が付きますか？

○習った英語を自分から言いたくなる意欲を育てられる。

○いろいろな分野のことを英語で学ぶことができる。

○聞いて、推測してー総合的な力が付く。

○自然に復習につながる。

○形・名前など中学校でやっていないことが小学校で扱われている。むしろその語彙力に驚いている。

○コミュニケーションを引き出すきっかけとなる。

●英語活動のねらいは小学校で終わりではない。聞きたいと思わせるインプットを大切にすること。教師はアウトプットを急がず、言いたくなったら言わせる。また、曖昧さを容認できる児童の姿勢が、外国語学習の成功に結びつく。

Q3 中学校で考えることは？

どう引き継ぎますか？

(=自分の授業を見直しますか?)

○あいまいさ→中学校になると数字(成績)が大切になってくる。細かいところも抑えるのが中学校である。

○(小学校)大まか、(中学校)大まか+文法や語彙など細かいところも気にする。

○(中学校)いろいろな小学校から入学してくるのでどういう事をやっているのか調べる。また実際に授業の様子を見て、知ること。

○他教科・学校行事の知識を生かす。

○絵や小道具を使う。

○生徒を見て、語りかけるという姿勢を大切に

●①音を引き継ぐーインプットの量は足りない。

②生徒に語りかける音ーコミュニケーションを大切に

③音から文字への移行ーバランスを

④文法に関しては、使う場面を大切に

まとめ

[小学校は]

①音を大切に

焦らず子どもの状況を見る。

②語りかけ、聞きたいと思わせるリスニングを重視した活動を行う。

[中学校は]

①(語りかける)+文字+文法(場面・自分のことを表現できること)を大切に

以上のような充実した「小・中連携」ができた研修会であった。大田区にとって、英語活動を中心として小学校・中学校の教員が集まり、互いの立場で素直に考えや意見を発表しあえたことは、今後の小・中連携で大切なことである。

小・中の教員がまずコミュニケーションを図り、互いにそれぞれの実態や困っていることや課題などを出し合うことにより、次の一步を踏み出すことになる。「小学校外国語活動」は各学校によって取り組みや研究に差があるが、研究・研修に切磋琢磨する姿勢こそ教員になくてはならないことである。

また、今後さらに、「小学校外国語活動部」と「中学校英語教育研究部」が連携を密にしていくことが重要である。

## Information

大田区内には中学校28校、小学校60校があり、それぞれ中学校区により1中学校対1小学校または1中学校対複数小学校で、小中連携活動を推進している。各地区での課題を明確にし、小学校から中学校へのスムーズな接続を目指した様々な取り組みを行っている。

①分科会形式による教科・領域での連携。

(授業公開・研究授業・相互の指導計画の検討)

②行事での連携。

③中学校教員の出前授業。

④小学校児童の体験授業。部活動体験。

⑤中学校生徒が夏休み期間中に、小学校へのボランティア活動。など。

このような活動や日常の情報交換を通して、小・中の9年間を見通した児童・生徒の育成を目指している。

(大田区立馬込中学校副校長 内山哲夫)

## 各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会

平成21年8月24日、今年度の各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会が、港区立赤坂中学校にて行われました。この会は、「英語教育にかかわる今日的な課題を中心とした情報交換や研究協議を通して、都内各地における公立中学校の英語教育の改善ならびに推進に資する。」ことを趣旨として、中英研が主催しています。今回も各地区から大勢の参加者を得て、実りある研修・情報交換が行えました。

ご講演をいただきました根岸先生からは、「新旧学習指導要領対照表(外国語)」の資料提供があり、新学習指導要領に向けて留意すべき点についてご示唆を頂戴いたしました。特に4技能の統合と評価の関わり、という問題提起は今後の取り組むべき大きな課題として再認識いたしました。



なお、内容は次の通りでした。

- 1 会長挨拶・講師紹介(中英研 井田宗宏会長)
- 2 講演 「新学習指導要領全面実施に向けて」(東京外国語大学 根岸雅史教授)
- 3 協議・連絡
  - (1) 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会について(中英研 井田宗宏会長)
  - (2) 連絡・報告事項
    - ① 夏期語いワークショップについて(北原延晃研究部長)
    - ② サマーワークショップの報告(横山達也事業部長)
    - ③ 都英語学芸会について(横山達也事業部長)
    - ④ コミュニケーションテストについて(重松靖調査部長)
    - ⑤ 関プロ埼玉大会について(飯島光正副会長)
    - ⑥ 全英連東京大会について(清水研一郎副会長)
  - (3) 協議・その他
    - ① 出版部からのお礼とお願い(池田武男出版部長)
    - ② 中英研運営に関する質疑応答

### ☆☆ 出版部からのお知らせ ☆☆

中英研出版部では、年3回出版物をお届けしています。1学期末と2学期末に「都中英研だより(だより)」を、年度末に「中英研究会報(会報)」を、それぞれお送りしております。今回はその秋発行の『だより』です。

春発行の『だより』では、主にその年度の事業計画をお知らせしています。また、秋発行の『だより』では、紙面のゆるす限り各地区の研究活動の詳細をご紹介しますよう努めております。

一方、年度末の『会報』では、その年度に行われた中英研の全事業報告と各地区の1年間の研究活動の様子をまとめて、お伝えしております。特に、各地区の研究活動報告は、広汎な東京都全市区より、各地区部長・幹事長の皆様から記録を頂いております。紙面はわずかですが、各地区の特徴や都全体の動向が理解できるものとなっております。あらためまして、各地区部長・幹事長の皆様には、ご執筆のご協力に感謝申し上げます。

それぞれの出版物については、中英研全会員にお届けしたいところですが、予算の都合上、各校2部と限定させていただいております。ご理解いただきたいと思っております。なお、この点に対応するよう「中英研ホームページ」にて、全て掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今後とも、中英研出版部の活動にご理解とご協力をいただけますよう、よろしくごお願い申し上げます。(出版部長 池田 武男)

<中英研ホームページ>

<http://www.chueiken-tokyo.org>

<出版部への問い合わせ先>

連絡先: 西東京市立田無第四中学校 副校長 池田 武男(中英研出版部長)  
TEL: 042-465-6113 FAX: 042-469-2181 Mail: j-tanas4@nishitokyo.ed.jp